

デザインスクールで「地域をくらし」を伝える

5月26日、せんとぴゅあIで第46回デザインスクールを開催しました。講師は行止り香(ゆきまさりか)氏。

今回のテーマは「心地よい暮らしの作り方」。インテリアやビジネス、食など生活のデザインは、ステップを踏めばセルフラーニング(自己学習)できると解説。まずはリサーチ：自分は何が好きなのかを考える。次にセレクト…望む状況から現状を逆算し、不要な物を捨てる。それができたらまずは無理なくできるレベルからスタートし、徐々に個性を出して自分のものにしていく。自分の「好き」を知らないうちからデザインを考えるのは難しいので、例えば織田コレクションで好きなデザインを見つけたら、どこが好きなのかを考える。常に好きなものを探し、リスト化し、順位の低いものを捨てて「好き」を突き詰めれば、スペシャルなものを創ることができると語りました。



参加者の「好きなテイストでインテリアは生活デザイン(設計)のヒントをお伝えしています。7月は26日(金)午後6時半より、建築家の中村好文氏にご講演いただきます。

リアを揃えても自分の個性が出せない」という質問には、「個性が出るのは家具よりも装飾物。機能的には不要なものを加えることで個性が出る。壁に絵という一つ一つの窓を追加してみれば」などアドバイス。デザインスクール

地名と探検史から大雪山を知る

5月25日、せんとぴゅあIIにて講演『地名と探検史から紐解く大雪山』を開催し、約50人が参加しました。講師は山薬舎BEARの佐久間弘代表。松浦武四郎、松田市太郎、松本十郎、高橋不二雄、ライマンらの過去の探検記録などから読み解いた大雪山の由来についてお話いただきました。現在の地名はアイヌ語などのような



意味であったのか、石狩川の源流たる石狩岳とは本来はどの山なのか…などについて、考察を交えながら解説。アイヌ語由来の山が少ないのはなぜか、という質問には「アイヌにとって沢(さわ)＝道＝狩場であった

6月9日、第二回キトウシ国際サイクリングで東川の自然を満喫

6月9日、第二回キトウシ国際サイクリングが開催されました。この大会は、タイムレースではなく交通安全のルールとマナーを守り、健康増進を目的に自転車道を漕ぐレクリエーション。キトウシ森林公園をスタートし、3コースそれぞれに設定された目標地点から折り返して戻ってきます。今回はAコース(天人峡まで、往復63キロ)253人、Bコース(忠別湖まで、往復48キロ)125人、Cコース(東12号まで、往復24キロ)60人の計438人が参加し、快晴の東川町を疾走しな



から雄大な自然を満喫しました。中にはファットバイク(冬でも乗れる極太タイヤの自転車)で参加する猛者も。町立日本語学校の留学生ら17人もボランティアスタッフとして参加し、大会後には参加者が一堂に会したジーンズカンパニーで親睦を深めました。抽選会で当たった東川の特産品とともに熱い初夏の想い出を持ち帰ったみなさん、来年の第三回大会へのご参加もお待ちしております！(※来年6月の第2日曜日開催予定、参加申込は5月中旬締切予定です。)

ため沢には名前がついているが、山の頂上に獲物はいないためアイヌ語で名がつくことは少ない」と解説があり、参加者からは納得の声。

大雪山アーカイブスでは今後も講演会を開催します。次回は7月6日(午後1時半)山口和男氏に講演いただきます。

息づかいの聴こえそうな人形たち

6月8日まで、せんとぴゅあIで『宮竹眞澄の心ふる里人形展』東川特別展が開催されました。この展覧会は、宮竹さんご夫婦が平成20年から続けてきた全国巡回展が昨年眞澄さんの生まれ故郷・大分県で100回目を迎えたことから一区切りとなり、第一回目を開催した東川町で新たな展開を模索するために開催されたもの。会場には昭和から平成にかけての市井の人を題材にした81作品、240体の人形が展示されました。



1体の制作に1カ月以上かかるという作品たちは、粘土と水彩だけで創られたとは思えないほど感情豊か。来場者からは「子どもの頃を思い出して涙が出た」「細かいところまで粘土でできていて、今にも動き出しそうな表情に驚いた」「展覧会ごとに何度も来てしまう」など、感動の声。写真の作品「底力II」は、2016(平成28)年の豪雨

災害後、前向きに歩みを進める人々に応援の気持ちを込めて創られたもの。表情の多彩さはもちろん、野菜などの細かさにも注目ください。今後も制作活動は継続し、多くの人の心に寄り添った展示活動をゆっくり続けたいとのこと。近況はホームページ(NIYATAKE DOLL)をご覧ください。

未来を担う子どもたちに助成金を交付—企業版ふるさと納税を活用—

5月28日、(株)ホクリク(東京都足立区、野口研二代取締役社長)様より受けた企業版ふるさと納税を活用した本年度一回目の大学進学奨学助成金交付式を行いました。

松岡市町長は「(株)ホクリクは水と緑を大切に企業。納税したお金の

使われ方がハッキリわかるように寄付したいと探していたところ、旭岳や大雪旭岳源水をみて水を大切にしていることを知



り、東川町に寄付しようと思ってくれました。「日本の将来を担う人に使ってほしい」という思いで今年から1億円(昨年度まで3年間は5千万円)の寄付をしていただ

ヌーラボとオフィシャルパートナー協定を締結

5月23日、(株)ヌーラボと6社目となるオフィシャルパートナー協定を締結しました。

オフィシャルパートナー制度は、東川と企業がパートナーとなり、地方や日本世界の未来を育む社会価値の共創を目指す本町の特徴的な取り組み。



「Backlog(バックログ)」「Caoco(カク)」「Typealk(タイプトーク)」を開発・提供する会社。昨年度宮古島市教育研究所および株式会社リチャージと共同で制度を開始。その新たな候補地として、町おこしのPRや役場の組織づくりで先進的な取り組みをしている東川町が選ばれました。

この協定で、ヌーラボが独自に展開している社員育成・福利厚生制度「リゾートワーク制度」とマッチングし、東川がその拠点の一つとなります。ヌーラボ社員が一時的に東川で働きながら、町内の子どもたちや日本語学校の留学生を対象とした教育プログラムを実施することで地域に貢献。社員にと

っている。そうした思いを受け、未来を担おうと大学へ進学する子どもたちの支援ができることが誇らしい」と語りました。

この助成金は、野口社長の意向により実現した4年制大学へ進学する子どもたちを支援する制度で、今年度からは1人あたり10万円を増額し、50万円を助成(返済不要)しています。